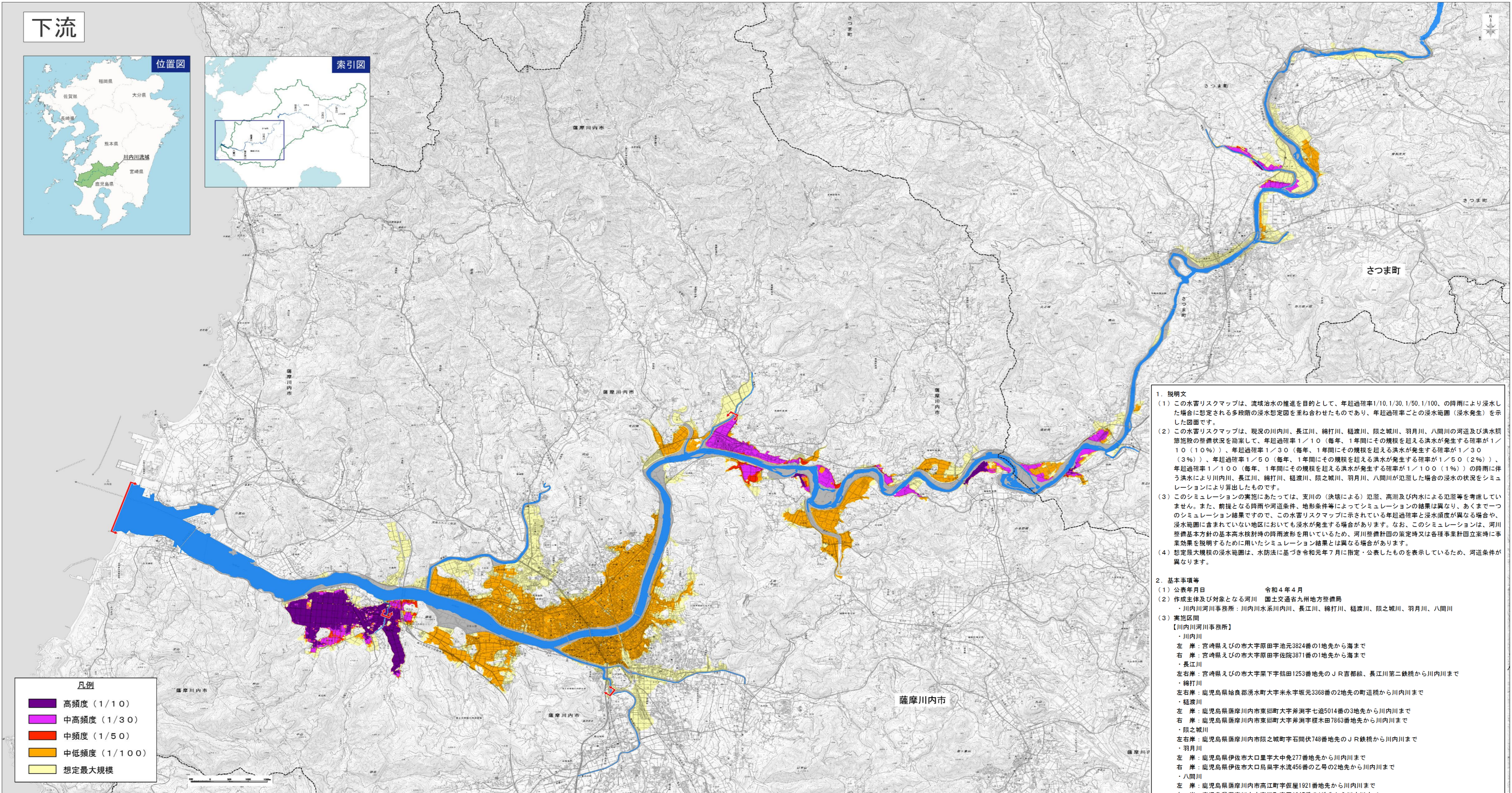


川内川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ 【現況河道】

暫定版

下流



凡例

高頻度 (1/10)
中高頻度 (1/30)
中頻度 (1/50)
中低頻度 (1/100)
想定最大規模

1. 説明文
 - (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
 - (2) この水害リスクマップは、現況の川内川、長江川、櫛打川、樋渡川、隈之城川、羽月川、八間川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により川内川、長江川、櫛打川、樋渡川、隈之城川、羽月川、八間川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
 - (3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 - (4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和元年7月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
2. 基本事項等
 - (1) 公表年月日 令和4年4月
 - (2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省九州地方整備局
・川内川河川事務所：川内川水系川内川、長江川、櫛打川、樋渡川、隈之城川、羽月川、八間川
 - (3) 実施区間
【川内川河川事務所】
・川内川
左 岸：宮崎県えびの市大字原田字池元3824番の1地先から海まで
右 岸：宮崎県えびの市大字原田字佐院3871番の1地先から海まで
・長江川
左右岸：宮崎県えびの市大字栗下字銀田1253番地先のJR宮都線、長江川第二鉄橋から川内川まで
・櫛打川
左右岸：鹿児島県薩摩市大字米永字坂元3368番の2地先の町道橋から川内川まで
・樋渡川
左 岸：鹿児島県薩摩川内市東郷町大字斧洲字七迫5014番の3地先から川内川まで
右 岸：鹿児島県薩摩川内市東郷町大字斧洲字榎木7863番地先から川内川まで
・隈之城川
左右岸：鹿児島県薩摩川内市隈之城町字石間伏748番地先のJR鉄橋から川内川まで
・羽月川
左 岸：鹿児島県伊佐市大口里字大中免277番地先から川内川まで
右 岸：鹿児島県伊佐市大口里字水渡456番の乙号の2地先から川内川まで
・八間川
左 岸：鹿児島県薩摩川内市高江町字飯屋1921番地先から川内川まで
右 岸：鹿児島県薩摩川内市高江町字平1947番の1地先から川内川まで
 - (4) 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/10 (川内川流域の12時間の総雨量204mm)
・年超過確率1/30 (川内川流域の12時間の総雨量243mm)
・年超過確率1/50 (川内川流域の12時間の総雨量261mm)
・年超過確率1/100 (川内川流域の12時間の総雨量286mm)
 - (5) 河道条件 現況
 - (6) 関係市町村 薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

『国土地理院の電子地形図(タイル)』『羽島』『川内』『塔之原』『蒲生』『西方』『東郷』『宮之城』『薩摩黒木』『大川』『紫尾山』『湯田』『永野』を掲載

浸水が想定される範囲を表示